

# 青森県定置漁業協会先進地視察研修開催

青森県定置漁業協会（西崎会長）は毎年開催している研修の一環として、去る七月三十一日から八月二日に亘って先進地視察研修を開催し、宮城県牡鹿町の日本鯨類研究所鮎川実験場並びに牡鹿漁協、石巻市の石巻魚市場株式会社を訪問しました。参加者は当協会の十一会員他、十四名が参加し行われました。

鮎川実験場での研修内容は七月一日より指定漁業の許可及び取締りに関する省令の一部が改正され、定置網に混獲されたひげ鯨等（ミンク鯨など）の利用が混獲の報告とDNA分析などを行うことを条件として可能となりました。標本送付先の鮎川実験場で行われているDNA分析等を見学し、後藤資源分類研究室より日本沿岸でみられる鯨種や捕食量・漁業についての影響等についての調査等の説明を受けました。



意見交換会（牡鹿漁協）

また、牡鹿漁協においては鬼玉信夫組  
合長、株式会社山根漁業部・山根正治専  
務と定置漁業についての意見交換会を行  
いました。定置漁業関係者が協力し、北

東北太平洋側の巻網船の操業ラインの沖出しを実現させたい等の意見が出ました。  
石巻魚市場株式会社では色川元会長より市場内の施設・システムの効率化、並びにHACCP方式を導入した衛生面での安全対策の対応等についての説明がありました。



石巻魚市場の視察風景